

令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業 実績報告書

課題名 白輪ギクに代わる有色系有望品種の探索

所属、担当：西讃農業改良普及センター 小林弥生

1 課題を取り上げた理由

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により冠婚葬祭などのイベントが減少しており、白色輪ギクの販売価格が低迷していることから、有色系品種の特性を調査し、市場ニーズに的確に対応できるよう情報を収集する。

2 課題解決項目と年次計画

調査期間：令和3年

調査研究の細目課題	研究実施年度					役割分担など 具体的な担当・機関名
	30	31	2	3	4	
白輪ギクに代わる有色系有望品種の探索				○		J A 豊南地区営農センター

3 既往の成果

特になし

4 当該年度の調査研究計画

1) 設置場所 観音寺市大野原町

2) 設置農家名 S氏

3) 調査期間 令和3年7月～4年2月

4) 耕種概要

(1) 作型名 半電出荷作型, 年末出荷作型

(2) 品種名 (有色系品種) 弓戸の艶 (赤色)、弓戸の星 (黄色)、(対象品種) 精興栄山

(3) 育苗方法 直挿しによる

(4) 栽植密度 精興栄山 120本/坪, 弓戸の艶・弓戸の星 140本/坪

(5) 施肥設計 地域慣行による

5) 調査計画等

(1) 生育調査：消灯日、草丈

(2) 収穫物調査：切花長、調整重、花卉数等

(3) 日持ち調査：2週間後の品質

(4) 市場調査：関西市場の評価

6) (1) 定植日 半電出荷作型 7月24～25日

年末出荷作型 9月5日

(1) 消灯日 半電出荷 弓戸の艶 9月27日、弓戸の星 10月2～3日

精興栄山 9月19～20日

無加温

年末出荷作型 弓戸の艶・弓戸の星 10月26日, 精興栄山 10月24日

14.5℃で加温

(2)再電照 半電出荷 弓戸の艶 10月9日から3日間, 弓戸の星 10月15日から2日間,
精興栄山 9月27日から6日間

年末出荷作型 弓戸の艶・弓戸の星 11月5日から3日間 精興栄山 11月
5日から5日間

5 期待される成果

市場ニーズに的確に対応し、生産者の所得の向上につながる。

6 結果

1) 生育調査

・消灯後の草丈は、「精興栄山」に比べて「弓戸の艶」「弓戸の星」が低いものの、後半は追いつき、ほぼ同じ長さになった。節数も「精興栄山」に比べて「弓戸の艶」「弓戸の星」が少なかった。

2) 収穫物調査

- ・切花長約90～95cmで差がなかったが、11月出荷の弓戸の星だけ98cmと長かった。
- ・節数は多い順に弓戸の星>精興栄山>弓戸の艶であった。
- ・切り花重(80cmに調整)は重い順に弓戸の星>弓戸の艶>精興栄山の順で弓戸の星が最もボリュームがあった。
- ・花蕾の大きさでは、大きい順に精興栄山>弓戸の星>弓戸の艶で栄山が一番大きかった。
- ・花径長では弓戸の星が最も大きかった。

3) 収穫時期

半電出荷作型で、「精興栄山」で11月10日から出荷が始まり、11月13日がピークで11月17日まで出荷が続いた。「弓戸の艶」で11月20日に出荷開始、ピークが11月24日、出荷終了が11月29日であり、「弓戸の星」で12月1日に出荷始め12月4日ピーク、12月11日が出荷終了であった。

年末出荷作型では、「精興栄山」で、12月13日に出荷が始まり、12月16日がピークで12月27日まで出荷があった。「弓戸の艶」で12月15日から出荷が始まり、ピークが12月18日、12月25日が出荷終了であった。「弓戸の星」で出荷始めが12月20日で、ピークが12月25日、出荷終了が12月27日であった。

「弓戸の星」は、収穫時に葉がもろく扱いづらかったが、その後は問題なかった。

4) 日持ち調査

3品種とも20℃前後では、花瓶にいけて2週間は問題はなかったが、「弓戸の星」では、少し首が曲がるものがあった。また2週間目には葉が傷むものもあった。満開時の花色はレモン色で大きかった。「弓戸の艶」は赤色が濃かったが2週間後くらいには、少し白くなってきた。また活けて1週間目に花にダニが見えた。

5) 市場調査

関西2社では、評価が異なった。1社では「弓戸の艶」は評価が高く、「弓戸の星」の評価が低かったが、1社は「弓戸の星」は欠点があるものの、今後も購入したいとのことであった。

7 考察

・「弓戸の星」は、対照品種の「精興栄山」と比べて、蕾の時は同程度の大きさであるが、開花すると対照品種に比べ大きくなるという長所がある。しかし「精興栄山」の濃い黄色の花に比べるとレモン色に近い花色なので仏花としての評価が分かれるところである。

また、収穫時に葉が落ちやすいので作業性が悪く、小売り業者の評価も下がる点ではないかと考えられる。

用途をPHN用だけでなく、年末用のディスプレイのような花材として使用すればおもしろいのではないかと。

- ・「弓戸の艶」は現在多く栽培されている「美吉野」にくらべ、品質が大きく劣るところはないと考えられ「美吉野」ほど脇芽がでず、脇芽もかたく、作業しやすい。色も濃いので有望である。
- ・両品種とも、まだ市場には十分出回っていないので、小売業者や仲卸業者に使用してもらって、評価してもらう必要がある。

8 主なデータ

1) 生育調査

表1 半電出荷作型の草丈の推移

	精興栄山	弓戸の星	弓戸の艶
9月28日	67.75	53.85	54.95
11月5日	97.8	93.4	95.1

表2 消灯時の草丈

草丈	精興栄山	弓戸の星	弓戸の艶
半電出荷	67.75	53.85	54.95
年末出荷	74.5	65.9	69.9

表3 消灯時の節数

節数	精興栄山	弓戸の星	弓戸の艶
半電出荷	36.4	26.6	24.1
年末出荷	36.2	29.4	26

2) 収穫物調査

表4 半電出荷作型の収穫物調査

	草丈 (cm)	節数	切花重 (80cm)g	花蕾縦 (mm)	花蕾横 (mm)	花弁数 舌状花	花弁数 筒状花	花径 mm	茎径20 cm (mm)	茎径5cm (mm)
精興栄山	93.6	45.0	43.0	24.9	32.9	297	2	78.3	6.0	5.2
弓戸の艶	92.3	40.2	51.3	15.1	25.4	334	10	89.5	6.3	4.9
弓戸の星	98.4	49.4	57.6	21.3	28.7	292	9	116.9	7.0	5.2

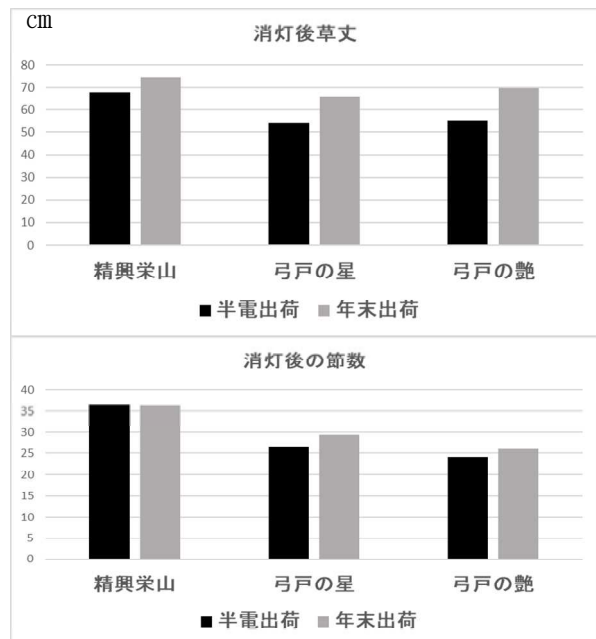
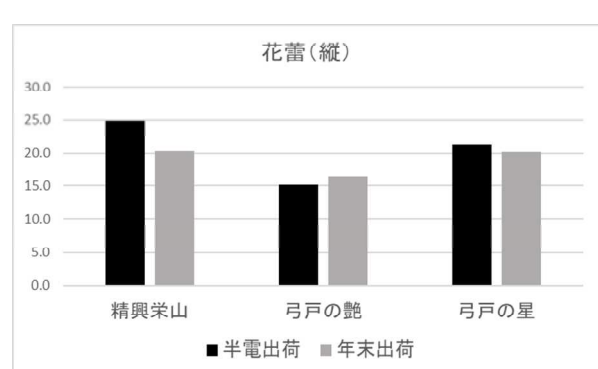
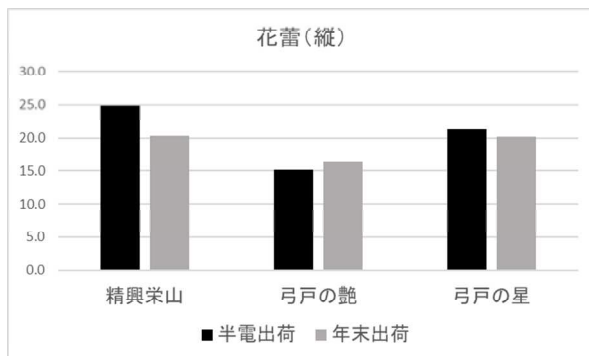
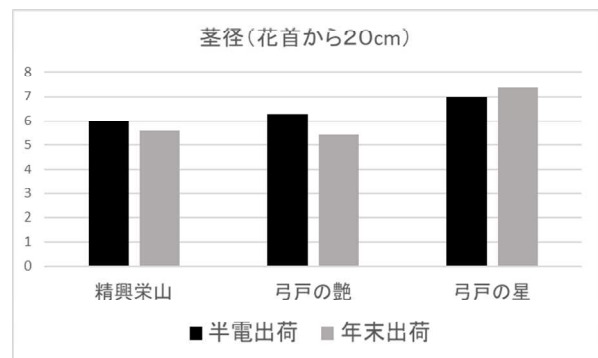
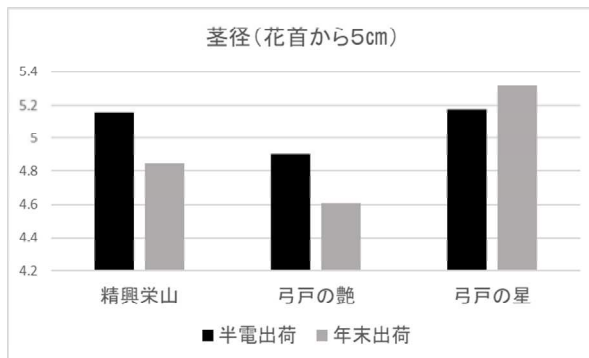
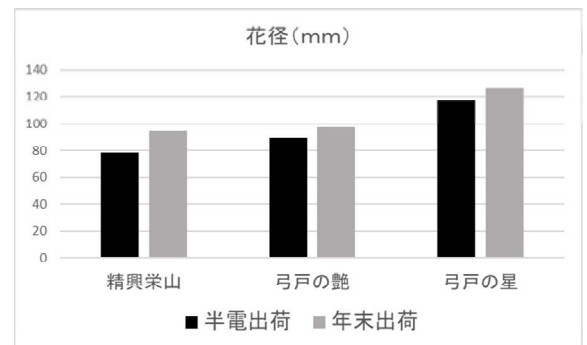
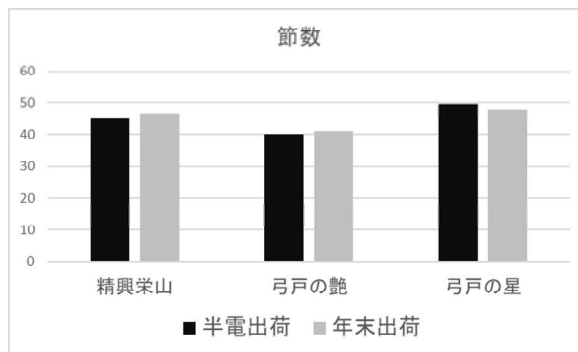
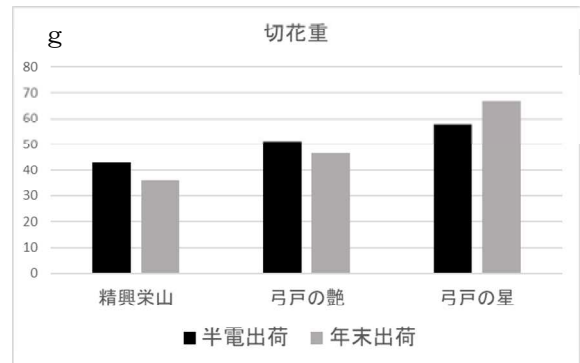
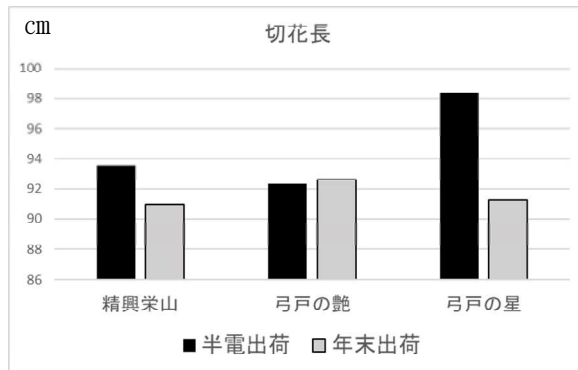


表5 年末出荷作型の収穫物調査

	草丈 (cm)	節数	切花重 (80cm)g	花蕾縦 (mm)	花蕾横 (mm)	花卉数 舌状花	花卉数 筒状花	花径 (cm)	茎径20 cm (mm)	茎径5cm (mm)
精興栄山	90.9	47	36.0	20.3	26.6	274	1	94.6	5.6	4.8
弓戸の艶	92.6	41	46.5	16.4	23.4	207	47	97.7	5.4	4.6
弓戸の星	91.3	48	66.7	20.2	27.1	260	33	126.4	7.4	5.3



単位：mm

3) 市場アンケート調査結果

白輪ギクに代わる有色系有望品種に関するアンケート					
実施時期: 令和4年2月					
調査方法: 市場担当者(なにわ花いちば・兵庫県生花梅田市場)と各市場の仲卸業者にアンケートの依頼した。仲卸業者は市場担当者が選定する。					
1	購入者	①市場	②仲卸業者	③小売り	
		1	2	2	
2	弓戸の艶(赤色)について				
1)	今後も「弓戸の艶を」を購入したいか				
		①はい	②いいえ	③その他	
		2	1	4	
2)	今後も購入したい理由				
		①ほかの品種と比べて遜色なかったから(1)			
		②ほかの品種より良かったから(1)			
		A 花色	B 日持ち	C 葉	D 水上げ
		1	1	1	1
3)	今後購入しない理由				
		A 花色	B 日持ち	C 葉	D 水上げ
		0	0	0	0
		E: 花首が弱い。切り前が不安定。			
4)	③その他を選んだ理由				
		・美吉野がない時に購入したい。(1)			
		・市場で見なかった。購入する機会がなかった。(4)			
3	弓戸の星(黄色)について				
1)	今後も「弓戸の星」を購入したいか				
		①はい	②いいえ	③その他	
		3	1	1	
2)	今後も購入したい理由				
		①ほかの品種と比べて遜色なかったから(3)			
		②ほかの品種より良かったから(0)			
		A 花色	B 日持ち	C 葉	D 水上げ
		0	0	0	0
		・葉傷み一部あり。切り前が少しゆるい。			
		・花色は良かったが、切り前に安定性がなかった。			
		葉保ちについては、若干疑問視。			
		・あまり買えなかった。数量増加を望む。			
3)	今後購入しない理由				
		A 花色	B 日持ち	C 葉	D 水上げ
		1	0	0	0
4	仏花(キク)で今後栽培してほしい色や品種				
		秋ギク	精興明盃	夏ギク	晃花の栄翔
		・Mクラスの白菊 ・頭の大きい白菊 ・品種を問わず白菊			
		・良質な雪ボタン			
5	仏花の有色品種で、どの時期の栽培を増やして欲しいか				
		①春彼岸	②新盆	③お盆	④秋彼岸
		2	0	4	2
					⑤年末
					⑥その他
					5
					0
6	その他の意見・要望				
		・赤キクは色抜けがない品種が理想＝濃い目の方が無難。			
		・黄菊は、花色の濃さ、葉色の濃さ、花のボリュームを重点的に品種を選択するとよい。			
※なにわ花いちばは、市場担当者が仲卸業者の意見を取りまとめて回答いただいた。					

4) 写真 ①12月20日



弓戸の艶



精興栄山



弓戸の星

②12月24日

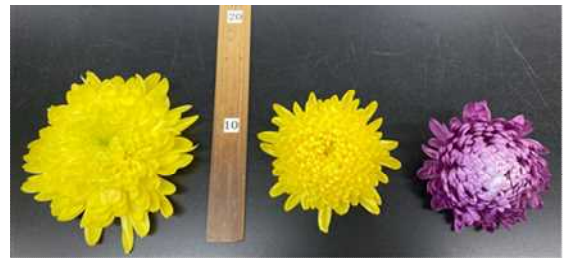


精興栄山

弓戸の星

弓戸の艶

④開花状況 12月28日



弓戸の星

精興栄山

弓戸の艶

③12月28日



弓戸の艶



精興栄山



弓戸の星

令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進 実施報告書

課題名 ラナンキュラス栽培ほ場の土壌調査および先進農家の優良事例調査

所属、担当：関係機関連携

1 課題を取り上げた理由

香川県のラナンキュラスは県オリジナルの育成によりカラーバリエーションが増えており、また、種苗供給体制の整備により既存産地以外でも栽培面積が増えている。県内各地に産地が広がり様々な土壌条件下で栽培されたことで、栽培に不敵な土壌条件も散見された。昨年度は、全生産者の栽培ほ場の土壌分析を行い、土壌条件による生育の差を調査し、注意すべき分析項目について知見が得られた。そこで、今年度は基肥施用前の土壌分析を栽培農家全戸で実施し、分析値に応じた施肥量、施用方法を検討する。また、昨年度に時期別の硝酸態窒素濃度の変化を調査した優良農家においては、単年度の調査では作型の年次変動もあるので、引続き継続調査を行い、県オリジナル品種の適正な追肥量、施用時期を検討する。

2 課題解決項目と年次計画

調査期間：令和2～4年度

調査研究の細目課題	研究実施年度				役割分担など
	2	3	4	5	
土壌分析結果に基づいた適正な施肥量の検討					各普及センター 農業試験場 農業経営課
1) 基肥施用前の土壌分析 (9項目：PH、EC、NO ₃ -N、k、CA、Mg、塩基置換容量、腐食、有効態P) による土壌状態調査	○				
2) 基肥施用前の土壌分析に基づいた施肥量の検討		○	○	○	
3) 時期別硝酸態窒素濃度の調査及び施肥、収量調査(優良農家)	○	○	○	○	

3 既往の成果

- ・ 県内のラナンキュラス栽培ほ場の土壌分析の結果から、定植時のEC値の高いほ場で生育不良や病害等の発生が多い傾向が見られた。
- ・ 全栽培ほ場の土壌分析結果から、硝酸態窒素が10mg/100gを超えるほ場の中には、定植時の根痛みが見られ、硝酸態窒素の過剰な蓄積は初期生育に影響があると考えられた。
- ・ 施設栽培では、ECと硝酸態窒素の相関は現れにくく、定植前の硝酸態窒素の測定は必ず行う必要がある。

4 当該年度の調査研究計画

- 1) 実施農家 元肥施用前の土壌分析 (PH、EC、NO₃-N) : 県内ラナンキュラス生産者全戸
時期別硝酸態窒素濃度 : 各センター篤農家2戸程度
- 2) 調査期間 令和3年8月～令和4年3月
- 3) 耕種概要
 - (1) 作型名 促成栽培
 - (2) 品種名 県オリジナル品種で2品種(恋てまり：小豆・西讃、ゆずてまり：東讃・中讃)
- 4) 調査時期 土壌分析：基肥施用前 (3項目：PH、EC、NO₃-N)
時期別硝酸態窒素濃度：各生育ステージ (定植時、定植1か月後、1番花開花始め～最盛期、1, 2番花の谷、2番花開花始め～最盛期、塊根養成中、塊根堀上前)

5) 調査方法 土壌分析：各機関で実施 (3項目：PH、EC、NO₃-N)

時期別硝酸態窒素濃度：普及センターでRQフレックスで測定、測定ほ場は昨年度実施した各管内の優良農家ほ場で、施肥管理、出荷量調査を合わせて行う。

5 期待される成果

ランタンキュラス栽培の好適な土壌条件と適正な肥培管理による安定生産

6 結果及び考察

1) 基肥施用前の土壌分析結果と結果に基づく指導内容

- (1) 6月から9月にかけて、基肥施用前ほ場 71 ほ場において、PH、EC、NO₃-Nの土壌分析を実施し、結果をもとに基肥施用の指導を行った。
- (2) PHは5.5から7.0の範囲のほ場が最も多かった。7.5を超えるほ場も見られるが、これらのほ場において初期の成育不良等は見られず、PH値の高さは影響が少ないと考えられた。しかし、酸性、アルカリ性の度合によっては塩基類の吸収のされ方が変わるため、置換性塩基類の分析値も勘案してPH調整指導を行った。
- (3) ECと硝酸態窒素については、ECは2.0mS/cmを超えるほ場が2ほ場。硝酸態窒素が10mg/100gを超えているほ場は25ほ場あった。
- (4) 基肥施用量については、これまでの分析結果と栽培様式、ほ場状態をもとに硝酸態窒素の値が5~8mg未満/100g程度のほ場は、通常施用量(N成分で1kg/a)、8~10mg未満/100gの場合は、基肥の減肥、10mg/100g以上の場合は減肥、無施用とする指導を行った。

2) 篤農家ほ場の時期別硝酸態窒素濃度の調査

- (1) 篤農家での時期別硝酸態窒素濃度の調査では、栽培様式の違いもあるが、定植後の硝酸態窒素では、17 mg/100gのほ場もあったが、初期成育に問題は見られなかった。端境期は気温が低く生育も緩慢になるため硝酸態窒素が25mg/100gと多いほ場もあったが、2番花の開花とともに低下し残留は見られなかった。
- (2) 硝酸態窒素濃度は、収穫期間中10 mg/100g前後を維持するのが肥培管理の目安の一つと思われるが、栽培様式や作柄も勘案しながら引続き検証する必要がある。

7 生産者への波及

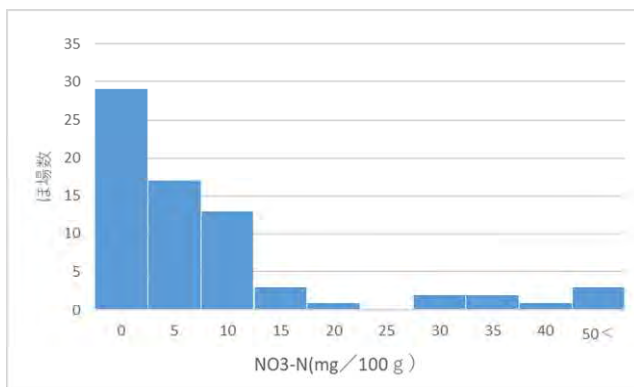
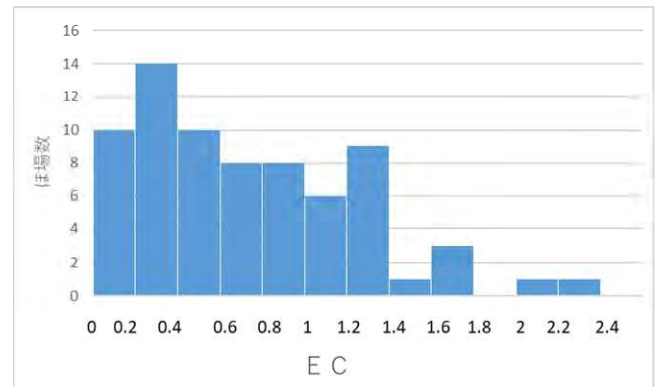
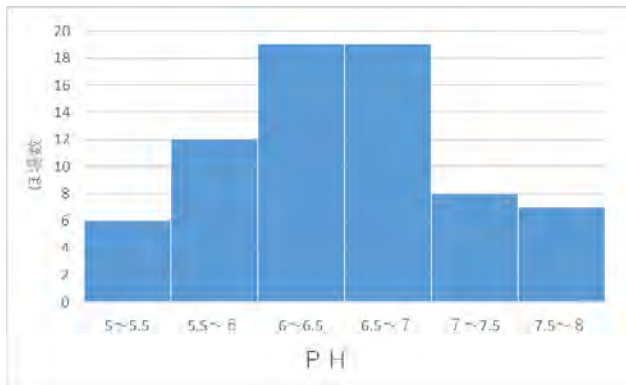
分析結果をもとに各普及センターから施肥指導を実施し、栽培マニュアルを拡充した。

8 残された問題点

土壌分析に基づく適正な肥培管理技術の検討を行ってきた中で、硝酸態窒素濃度は目安の一つになると考えられるが、引続き調査が必要である。また、ランタンキュラスの品質に水管理の影響が大きく関与していることが示唆され、草姿の改善に向けた適正な肥培・水管理の検討が必要である。

9 具体的データ

1) 土壌分析結果



2) 篤農家ほ場の時期別硝酸態窒素濃度調査

表1 硝酸態窒素の経時的推移(令和2年) (mg/100g)

ほ場	定植前	定植直後	定植後1か月	1番花最盛期	端境期	2番花開花始め	2番花最盛期	養成期	掘上期
A	1.0	3.4	7.5	10.3	25.5	7.9	3.2	7.7	5.0
B	2.0	9.8	7.1	12.2	11.6	—	9.3	3.2	2.6
C	2.1	0.6	4.5	7.3	7.1	—	3.4	1.2	—
D	2.0	0.9	2.5	—	4.0	—	0.9	0.6	0.9
E	7.0	10.6	9.4	8.9	10.6	9.9	1.9	1.6	2.8

表2 硝酸態窒素の経時的推移(令和3年) (mg/100g)

ほ場	定植前	定植直後	定植後1か月	1番花最盛期	端境期	2番花開花始め	2番花最盛期	養成期	掘上期
A	5.0	2.1	5.0	7.5	1.6	—	—	—	—
B	1.0	5.2	6.4	7.2	2.3	—	—	—	—
C	2.5	17.7	7.7	6.7	14.2	—	—	—	—
D	1.4	7.5	2.6	1.1	0.6	—	—	—	—
E	5.1	3.8	1.6	1.8	5.1	—	—	—	—
F	4.2	9.6	6.7	2.7	1.8	—	—	—	—
G	5.3	4.0	1.6	6.8	4.4	—	—	—	—

令和3年度 花き総合課題解決展示ほ設置報告書

課題名 ラナンキュラスの有望系統の試作試験

所属、担当：香川県農業試験場 野菜花き部門 村口 浩

1 課題を取り上げた理由

現在農業試験場で育成している県オリジナル品種の候補系統について、現地栽培試験を行うとともに、合わせて農業試験場ほ場でも栽培特性の確認を行う。

2 課題解決項目と年次計画

調査期間：令和3年

調査研究の細目課題	研究実施年度					役割分担など 具体的な担当・機関名
	3	4	5	6	7	
ラナンキュラスの有望系統の現地試作試験	○					小豆農業改良普及センター 中讃農業改良普及センター

3 既往の成果

試験場内ほ場では「16-2-24」が切花品質、出荷率、花色の面で他系統より勝っており、有望であると考えられた。（データ省略）

4 当該年度の調査研究計画

1) 設置場所 香川県農業試験場C3ハウス

2) 調査期間 令和3年10月～3月中旬

3) 供試品種及び試験規模：「16-2-11」および「08-5-114」8株反復無し、「16-2-24」10株2反復

4) 耕種概要

(1) 冷蔵催芽処理：薬剤に1時間浸漬後、慣行の催芽用土に埋め込み、最低温度5℃設定の冷蔵庫で2021年8月30日から10月3日まで冷蔵処理を行った。

(2) 定植：10月4日

(3) 栽植様式：2条植え（条間40cm、株間20cm）、ベッド幅0.6m

(4) 施肥：基肥 9月16日、IB化成S1号(保証成分(%)：10-10-10)をベッド1a当たり10kg 土壌混和
施肥 定植20日後からOKF-17(保証成分(%)：12-20-20)をかん水の都度生育状況を見ながら施用した。実際の施用量は下表のとおり

ベッド1a当たり追肥による窒素施用量

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計
1a 当り施用量 (g)	200	100	170	150	300	250		1,125

注：点滴チューブによりベッド内のみへの施用とした

5) 調査項目

(1) 採花状況・品質（採花時期、採花本数、切花長、花長、莖径）

5 期待される成果

県オリジナル品種のバリエーション増加による需要の拡大が期待できる。

6 結果及び考察

【収量調査】採花本数は「08-5-114」が135.0本と最も多く、「16-2-11」と「16-2-24」が共に120本程度であった。そのうち、出荷本数は「16-2-24」が114.0本と最も多く、「08-5-114」が83.8本と最も少なかった。採花率は「16-2-24」が94%と最も高く、「08-5-114」が62%と最も低かった。（表1）

【切花品質】採花開始日は「16-2-11」が11月26日と最も早かった。切花長は「08-5-114」が73.5cmと最も長く、「16-2-11」と「16-2-24」は共に60cm強であった。花長（花卉の長さ）は「16-2-11」が39.6mmと最も長く、「08-5-114」は30.4mmと最も短かった。茎径に大きな差は見られなかった。（表2）

【花色等（達観による）】「16-2-24」は全体的にオレンジが濃く花卉の内外、同様の花色で推移するのに対し、「16-2-11」は大輪ではあるが、花卉の内側の花色が薄く、外側も色むらが見られた。（図1）

【その他】未出荷の要因としては、「16-2-11」と「16-2-24」は首曲がりによるものがほとんどであった。「08-5-114」は3月に入り花卉の色むらが多く発生し、出荷率が大幅に低下した。現時点で花ジミ等花卉の障害はどの系統も出ていない。

以上、昨年度までの結果も踏まえて、花色、採花率、採花本数等から現時点では「16-2-24」が有望であると思われる。

表1 採花本数の推移（10株当たり） 3月14日現在

単位：本、%

品種名	「16-2-11」			「16-2-24」			「08-5-114」		
	採花 本数	出荷 本数	出荷率	採花 本数	出荷 本数	出荷率	採花 本数	出荷 本数	出荷率
11月後半	8.8	8.8	100	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
12月前半	25.0	23.8	95	10.0	9.5	95	8.8	6.3	71
12月後半	21.3	15.0	71	23.5	22.5	96	18.8	10.0	53
1月前半	13.8	11.3	82	17.0	15.5	91	22.5	17.5	78
1月後半	10.0	8.8	88	12.5	11.5	92	15.0	15.0	100
2月前半	7.5	7.5	100	9.5	7.0	74	10.0	10.0	100
2月後半	12.5	12.5	100	15.0	14.5	97	17.5	15.0	86
3月前半	25.0	23.8	95	34.0	33.5	99	42.5	10.0	24
3月後半	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	123.8	111.3	90	121.5	114.0	94	135.0	83.8	62

表2 切花品質

項目	採花 開始日	切花長 (cm)	花長 (mm)	茎径 (mm)
「16-2-11」	11月26日	64.2	39.6	6.2
「16-2-24」	12月8日	63.3	34.6	5.9
「08-5-114」	12月10日	73.5	30.4	5.9

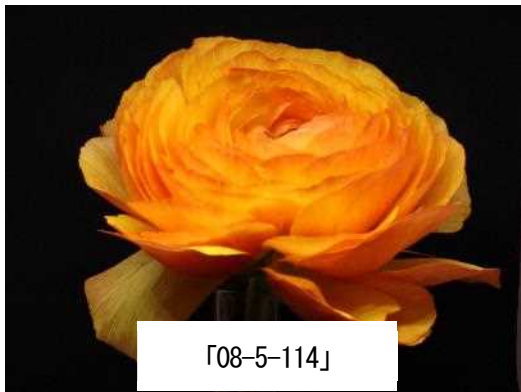


図1 供試品種の開花時の様子（2月22日）

ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業調査報告書

課題名 ラナンキュラスの有望系統の現地試作試験所属、担当： 中讃農業改良普及センター 石川史也、竹内小百合

1 課題を取り上げた理由

現在農業試験場で育成している県オリジナル品種の候補系統について、現地栽培試験を行い、現地での栽培特性の確認を行う。

2 課題解決項目と年次計画

調査期間：令和3年

調査研究の細目課題	研究実施年度					役割分担など 具体的な担当・機関名
	3	4	5	6	7	
ラナンキュラスの有望系統の現地試作試験	○					小豆農業改良普及センター 中讃農業改良普及センター 農業試験場

3 既往の成果

試験場内ほ場では「16-2-24」が切花品質、出荷率、花色の面で他系統より勝っており、有望であると考えられた。

4 当該年度の調査研究計画

- 1) 設置場所 丸亀市飯山町
- 2) 設置農家名 K氏
- 3) 調査期間 令和3年10月4日～2月21日
- 4) 耕種概要

(1) 冷蔵催芽処理：薬剤に1時間浸漬後、慣行の催芽用土に埋め込み、最低温度5℃設定の冷蔵庫で2021年8月30日から10月3日まで冷蔵処理を行った。

(2) 定植：10月4日

「16-2-24」の活着が悪かったため、12月上旬に農業試験場で育成した3株と植替えた。

(3) 栽植様式：2条植え（条間40cm、株間20cm）、畝幅1.2m

(4) 施肥：基肥 牛ふん堆肥200kg/a、90有機(665) 6.67kg/a

(5) 供試品種：「16-2-11」、「16-2-24」、「08-5-114」3株反復無し

5) 調査項目

(1) 採花状況・品質（採花時期、採花本数、切花長、花茎長、茎径、花径）

5 期待される成果

県オリジナル品種のバリエーション増加による需要の拡大が期待できる。

6 結果及び考察

表1 採花本数の推移 (10株当たり)

品種名	16-2-11	16-2-24	08-5-114
項目	採花本数	採花本数	採花本数
11月後半	3.0	0.0	7.0
12月前半	17.0	0.0	17.0
12月後半	0.0	17.0	20.0
1月前半	0.0	7.0	0.0
1月後半	0.0	10.0	30.0
2月前半	0.0	10.0	30.0
2月後半	3.0	27.0	10.0
合計	23.0	71.0	114.0

※「08-5-114」について、1月後半以降に3株中2株が枯死した。

表2 切花品質

項目	切花長 (cm)	花茎長 (cm)	茎径 (mm)	花径 (mm)
「16-2-11」	30.6	27.5	3.5	60.1
「16-2-24」	45.7	42.7	6.3	53.6
「08-5-114」	40.8	38.3	4.8	51.0



図1 ほ場の様子



図2 「16-2-24」

ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業調査報告書

課題名 ラナンキュラスの有望系統の現地試作試験

所属、担当： 小豆農業改良普及センター 瀧口 政也

1 課題を取り上げた理由

現在農業試験場で育成している県オリジナル品種の候補系統について、現地栽培試験を行い、現地での栽培特性の確認を行う。

2 課題解決項目と年次計画

調査期間：令和3年

調査研究の細目課題	研究実施年度					役割分担など 具体的な担当・機関名
	3	4	5	6	7	
ラナンキュラスの有望系統の現地試作試験	○					小豆農業改良普及センター 中讃農業改良普及センター 農業試験場

3 既往の成果

試験場内ほ場では「16-2-24」が切花品質、出荷率、花色の面で他系統より勝っており、有望であると考えられた。

4 当該年度の調査研究計画

1) 設置場所 小豆島町池田

2) 設置農家名 Y氏

3) 調査期間 令和3年10月19日～2月28日

4) 耕種概要

(1) 冷蔵催芽処理：薬剤に1時間浸漬後、慣行の催芽用土に埋め込み、最低温度5℃設定の冷蔵庫で令和年8月30日から10月14日まで試験場で冷蔵処理を行ったものを受け取り、更に18日まで小豆島で冷蔵し(5℃)、19日に小豆島で定植。

(2) 定植：10月19日

(3) 栽植様式：2条植え(条間36cm、株間18cm)、畝幅1.05m

(4) 施肥：基肥 シンボルエース(231) 6kg/a、ユーキフルペレット(1 - -) 12kg/a、
90有機(665) 8kg/a

(5) 供試品種：「16-2-11」、「16-2-24」、「08-5-114」3株反復無し

5) 調査項目

(1) 採花状況・品質(採花時期、採花本数、切花長、花茎長、茎径、花径)

5 期待される成果

県オリジナル品種のバリエーション増加による需要の拡大が期待できる。

6 結果及び考察

表1 採花本数の推移 (10株当たり)

品種名	16-2-11	16-2-24	08-5-114
項目	採花本数	採花本数	採花本数
11月後半	0.0	0.0	0.0
12月前半	0.0	0.0	0.0
12月後半	15.0(0.4)	10.0	12.5
1月前半	20.0	7.5(0.4)	35.0
1月後半	17.5	15.0(0.4)	27.5
2月前半	2.5	5.0(0.4)	7.5
2月後半	2.5	10.0	2.5
合計	57.5	47.5	85.0

() 内の数字は出荷不能な品質のもの 採花本数に含まない。

表2 切花品質

項目	切花長 (cm)	花茎長 (cm)	茎径 (mm)	花径 (mm)
「16-2-11」	59.5	63.5	5.1	78.5
「16-2-24」	52.5	47.5	5.4	75.6
「08-5-114」	64.5	60.5	4.0	70.2



ほ場の状況 12月中旬



16-2-24

08-5-114

12月28日

令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業 報告書

課題名 流通の効率化・高度化

所属、担当：西讃農業改良普及センター 吉田 美優

1 課題を取り上げた理由

マーガレットは在来白を中心に栽培されており、出荷時の1箱当たり入り本数は50本又は100本で、単色出荷が基本である。しかし、花屋などからピンク、黄色を入れ合わせた混色出荷を望む声が多いことから、実際に混色出荷を行い、経営評価を行うとともに市場の評価を確認する。また、需要の変化に伴う、パック花に適した脱葉処理を行った切花の評価を実施する。

2 課題解決項目と年次計画

調査期間：令和2年～3年

調査研究の細目課題	研究実施年度					役割分担など 具体的な担当・機関名
	2	3	4	5	6	
マーガレットの市場ニーズに適応した出荷形態の検討 ○脱葉処理が切り花品質に及ぼす影響 ○脱葉処理の市場評価調査 ○混色出荷の検討 ○混色出荷の市場評価調査						J A 三豊地区営農センター 農業生産流通課 農業経営課

3 既往の成果

脱葉を通常より10cm多くすることで、葉の程度によって下葉からの枯れあがりスピードには差があるものの、花の鑑賞期間に差はほとんどなかった。

令和3年2月5日に関東大手市場に出荷した結果、混色出荷の単価は60円と、有色品種の単色出荷（平均62.5円）と比べやや低い結果となった。

4 実施内容

①マーガレットの混色出荷の市場評価調査

- 1) 設置場所 三豊市
- 2) 調査期間 令和4年2月
- 3) 耕種概要
 - (1) 定植 ブライダルピンク 7月25日、イエロー 8月20日
 - (2) 作型名 1月出荷作型
 - (3) 品種名 「ブライダルピンク」、「イエロー」
- 4) 調査計画等
 - (1) 出荷形態ごと(単色・混色など)の経営評価
 - (2) 混色出荷に対する市場評価調査(卸、仲卸、小売り等へのアンケート調査)

②脱葉処理したマーガレットの市場評価調査

- 1) 設置場所 三豊市
- 2) 調査期間 令和4年11月

3) 耕種概要

- (1) 定植 7月下旬
- (2) 作型名 11月出荷作型
- (3) 品種名 「早生」

4) 調査計画等

- (1) 脱葉処理した切花の市場評価調査(卸、仲卸、小売り等へのアンケート調査)

5 期待される成果

市場との連携を密にしそのニーズに的確に捉え、生産者の所得向上につなげる。

6 結果と考察

①マーガレットの混色出荷の検討

(1) 出荷形態ごと(単色・混色など)の経営評価

令和3年3月の平均単価は白52.5円、ピンク57.6円、黄色69.7円、3色混合67.5円となり、混色出荷することで白やピンクよりも販売単価が高くなったが、黄色よりは安かった。(表1参照)単色出荷(3色)の平均単価は59.9円で、3色混色のほうが高くなった。

また、2色混色出荷の販売単価は、60.5円となり、ピンクよりは高くなったが、黄色よりは安かった。さらに、単色出荷(2色)の平均単価63.7円より安い結果となった。

以上のことから、混色出荷する場合は、白も含めて出荷したほうが、販売単価の向上が見込めることが分かった。しかし、市場からピンクが白より草姿が細いことが目立つとの意見もあったため、混色にする場合は、白も草姿が細いものを同梱する必要が感じられた。

②脱葉処理したマーガレットの市場評価検討

関西、関東の仲卸や小売り6件にアンケート調査を実施した結果、葉を通常よりも10cm多く脱葉して出荷した荷姿では、販売時に葉の萎れに差はなかった。しかし、今回のアンケートでは、慣行よりも脱葉を多くしたものが良いと回答した購入者が半数であった。(表3参照)マーガレットの葉の程度は、多すぎると花とのバランスが悪く、水上りも悪いため、ある程度の脱葉は必要と考えられる。

7 農業者等への波及

役員会での周知

8 残された問題点

暖かくなってきた春以降の出荷時の蒸れ対策が必要である。

9 具体的データ

表1 混色出荷と単色出荷の販売単価比較

	単価
白	52.5
ピンク	57.6
黄色	69.7
3色(白・ピンク・黄色)	67.5
2色(ピンク・黄色)	60.5

※単色については3月出荷の平均単価、混色は3色が3月27,29日、2色が3月20,22,31日出荷の平均である。

表3 脱葉におけるアンケート調査の結果

	質問事項	選択肢	回答
1	アンケート回答者について(計6件)	関西3件(仲卸、小売り2件) 関東3件(仲卸、小売り、スーパーマーケット)	
2	慣行と脱葉10cm多くしたもので差があるか	あり なし	0票 6票
3	脱葉の程度はどのくらいが最適か	1/3程度(慣行) 1/2程度 2/3程度 その他 ・水が下がりしなれば葉の量はどちらでも良い(小売店) ・小売りは自分で脱葉できる範囲の数量なので、下手な脱葉ならば自分でやった方が良いという声が圧倒的。加工し量を扱うところは、脱葉は喜ばれる。(小売店) ・特に脱葉等せずに顧客に転送しているので不明(仲卸)	0票 3票 0票 3票
4	マーガレット購入後、葉は除去しているか	はい いいえ	5票 1票
5	マーガレットの萎れは気になるか	はい いいえ	3票 3票
6	(5ではいと答えた方)時期はいつか?	・3~4月 ・時期は分からないが、蒸れて葉が黒いのが気になる ・急に暑くなる春	